

- 先取り！発掘調査報告 ～神明山遺跡編～
P1～3
- 旧赤松家記念館・旧見付学校ボランティア募集！
P4
- コラム『郷土史の交差点を渡る』佐藤清隆 P4

先取り！発掘調査報告 ～神明山遺跡編～



↑神明山遺跡周辺航空写真（南から）

「先取り！発掘調査報告」この特集では、調査報告書の作成に向け、調査成果の整理・研究をおこなっている遺跡について、その成果をどこよりも早くご紹介します。

今回は、平成26年度におこなわれた神明山遺跡発掘調査についてです。

神明山遺跡は磐田原台地の東南部に位置する鎌田地区、鎌田神明宮の南に広がり、鎌田第一土地区画整理事業に伴って調査をおこないました。神明山遺跡はこれまで調査歴がなく、どのような遺跡なのか全くわからなかった遺跡です。



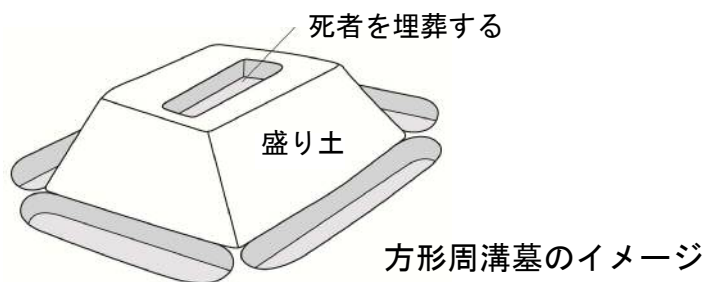
神明山遺跡発掘調査地点全景 →

ほうけいしゅうこう ぼ
連なる方形周溝墓

方形周溝墓は弥生時代から古墳時代にかけて造られた墓で、四角形に土を盛り、周囲に溝をめぐらせた形をしています。

北側の調査区では特に密集しており、溝を共有する形で方形周溝墓が築造されていました。見つかった墓は全部で 36 基になります。

遺体を納めた墓坑や土を盛り上げた墳丘は、すでに削られてしまっていて残っておらず、まわりに掘られた溝のみが見つかりました。



方形周溝墓



北側調査区の方形周溝墓群（航空写真）

溝の中からは、墓にお供えされた土器が見つかりました。土器についていた土を洗い落とした後、バラバラの破片を接合して、元の形を復元します。その後、土器を測りこんでいき、報告書に掲載する図面をつくっていきます。

土器の年代から、弥生時代中期ごろ（約 2,000 年前）の墓であることがわかります。



溝の中から見つかった弥生土器



復元した弥生土器



溝の中から見つかった弥生土器

新たに見つかった古墳 ～神明山1号墳～

調査区の西端付近で、古墳を1基発見しました。それまで存在が知られていなかった古墳です。神明山1号墳と新たに認定しました。古墳時代後期（7世紀半ば）の築造と推定されます。

遺体を安置した主体部は横穴式石室で、大型の石を積み上げて石室が造られていました。多くの石はなくなっていました。残っていた石の並びから当時の大きさが推測できます。

石室の内部からは、鉄刀3本や鉄鏃、^{てつぞく}耳環、^{じかん}玉類などの副葬品^{ふくそうひん}が出土しました。



神明山1号墳主体部（横穴式石室）



玉（丸玉）拡大

副葬品出土状況

左：鉄刀

右：刀装具・鉄鏃

下：玉（丸玉）

石室へと続く前溝からは須恵器^{すえき}が出土しました。これらも石室に納められた副葬品ですが、追葬^{ついそう}の際に室外へ掻き出されたものでしょう。



前溝から出土した須恵器

神明山1号墳から出土した須恵器

発掘調査報告書は平成31年3月末の発行を予定しています。完成後には、市内の図書館にも配布します。ご興味をお持ちになった方はぜひお手にとってご覧下さい。

旧赤松家記念館・旧見付学校ボランティア募集！

旧赤松家記念館・旧見付学校では、ボランティアの方々、土日・祝日を中心に、来館者への施設案内を行っています。下記の日程で勉強会を開催しますので、ボランティア活動に興味のある方、旧見付学校や旧赤松家記念館について勉強してみたいという方もぜひご参加ください。



旧赤松家記念館



旧見付学校

● 第1回 9月29日(土) いずれも参加費無料

午前10時～午前11時30分 会場:旧赤松家記念館

● 第2回 11月3日(土・祝)

午前10時～午前11時30分 会場:旧見付学校

● 参加申込方法

各開催日の前日までに、会場となっている施設へ電話でお申込ください。

主なボランティア活動は、土日・祝日の館内案内、施設主催事業の手伝い、研修会等への参加などです。

【申込・問合せ先】

1回目:旧赤松家記念館(磐田市見付3884-10) TEL&FAX 0538-36-0340

2回目:旧見付学校(磐田市見付2452) TEL&FAX 0538-32-4511

受付・開館時間:午前9時～午後4時30分 休館日:月・祝日の翌日



©磐田市

職員リレー コラム

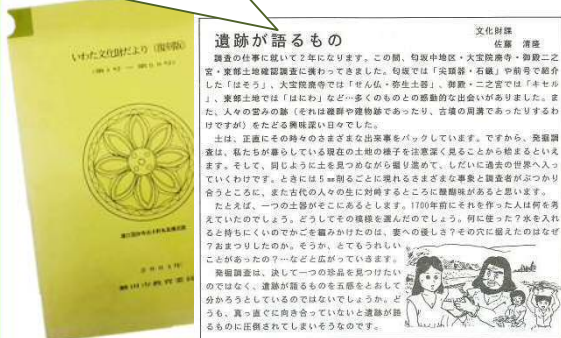
郷土史の交差点を渡る

佐藤 清隆

この4月から、磐田市文化財課「歴史文書館」に勤めさせていただくことになりました。文化財課へは、25年を経て2度目の勤務となります。前回は、平成4年から3年間お世話になり、^{さぎさかなか} 匂坂中遺跡や^{たいほういん} 大宝院廃寺遺跡、^{ごてん} 御殿・二之宮遺跡などの調査に当たりました。出会う人、もの、こと、思い起こせばどれもみな、それはそれは楽しく大切な日々となりました。

平成5年6月にそれまで発行していた「遺跡だより」をリニューアルして、「いわた文化財だより」第1号を発行しました。その10号(平成6年3月)の本欄に拙文を寄せて以来、四半世紀を経て再び綴ることになろうとは思ってもよかったです。

前回のコラムは『いわた文化財だより(復刻版)第1号～第50号』に収録！
磐田市立中央図書館でご覧いただけます。



4月の始め、埋蔵文化財センターに挨拶に行くと25年前の顔ぶれがぞろぞろと出て来、ここ竜洋支所では同級生と公用車を駆り、270円のお弁当を楽しむ日々を送るなどと、一体誰が想像できたでしょう。まさに「人生はスクランブル交差点」ですね。

もともと墨書の鮮やかさが好きですから、今回は江戸時代や明治時代の文書を調査研究することになり、楽しみにしています。そして、郷土史の交差点を行き来した人々の跡を、次代へ伝え残す務めに、真摯に向き合っていきたいと思っています。

編集後記

少しずつ日暮れの時間が早くなってきました。秋の夜長は、文化財だよりに読み返してみようかと思ひます。

発行：磐田市教育委員会事務局教育部
文化財課(磐田市埋蔵文化財センター)
住所：〒438-0086 磐田市見付3678-1 電話：0538-32-9699
◆WEB版は市HPから閲覧できます。[磐田市 文化財だより] 検索